

桜蔭俳話会 七月句会 (第三四七回)

平成二十八年七月二十四日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 3点①墨ふくませて海と書く土用東風 朋子
- 3点①未だ来ぬ返信怖し夾竹桃 秀一
- 3点 赤子泣く蟬鳴く真昼工事音 明美
- 2点①子の声は夏に始まる夏やすみ ツル子
- 2点 炎天の光り集めし鬼瓦 守
- 2点 晩夏光静かに止まる母の息 ヤエ子
- 2点 炎天や消毒臭の路線バス 守
- 2点 向日葵やネクタイ締むる祝ごと 秀一
- 1点①ところ天昔も今も素のままに ツル子
- 1点①西日這ふおもちゃの世界交差点 かおる
- 1点①夏桑や絹を支えしかか天下 ヤエ子
- 1点①火虫飛び交ふおほかたは変声期 朋子
- 1点 マンション族根付く広場の夜店かな 守
- 1点 戦中派説きし平和や大夕立 明美
- 1点 社量むの原稿置くや胡蝶蘭 かおる
- 1点 空豆の半分ほどの塩加減 幸
- 1点 燕の巢落ちたるかこみ子等の知る 眞三
- 1点 鉢巻きはみどり一色夏の街 明美
- 1点 花木権残せし花の紅冴えて ツル子
- 1点 噴水の空を離れぬひと雫 朋子
- 1点 郭公や全身耳に森の朝 友子
- 1点 梅雨曇名前出てこぬもどかしさ ヤエ子
- 1点 蟬しぐれ退位を望まるる陛下 朋子
- 1点 炎天に氷河の氷酒に入れ 眞壽
- 1点 蓮の葉に遠き日うつる水の玉 ツル子

※ 豆騎手の仔馬に一声スタンバイ 幸

木曾谷の祭りの露店見歩き 眞三

ママチャリの塩の模様のサドルかな

かおる

焼き上る食パンの香朝ぐもり 秀一

蛸食ぶる訳面白し半夏生 友子

肝つ玉かあさん逝くや白木権 ヤエ子

バス停は片陰毎に人がをり 眞壽

幸

友子

ボーリング娘に勝てぬ夏の宵 眞壽
銀行のローン審査や誘蛾燈 明美
楽しむや庭のせましとセラニウム

眞三

目札に済ます坂道凌雲花 秀一

眞壽

軽やかな衣装を身にし更衣 眞三

かおる

夢ひとつ泡粒ひとつ蓮の花 守

朋子

JR上野公園口白地

こぼれ種狭庭にせまき紫蘇匂ふ ツル子

白南風や市場跡地の赤煉瓦 守

鉛色の水滴々と梅雨の尾瀬 友子

澄みし溝小さき流れの目高の輪 眞三

売れる家売れざる家の七変化 明美

目薬の成分表や梅雨昏し 秀一

滑りやすき雨の木道きすげ咲く 友子

風の道知る愛犬や夏の朝 ヤエ子

夏草や会津土魂のなれの涯 眞壽

期限切れビール飲み干すおやじかな

かおる

(不在投句 古野明美、稲葉幸、京林眞壽、岩崎眞三)

「事務局からお知らせ」

○第一二二回通信句会作品募集

夏の季語を用いた三句。締切りは八月十日(水)。

同封の葉書で送りください。

○八月は、句会は休みとなります。

○九月句会

期日・九月二十五日(日)午後一時から。

会場・旭区民文化センター(サンハート)

○十月の句会は、十月三十日(日)、大磯で吟行

となります。句会場は鳴立庵です。